千鳥ヶ淵

第564号

公益財団法人 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
〒102-0075 千代田区三番町2
電話 03（3261）6700
FAX 03（3261）6712
http://www.boen.or.jp
郵便振替口座 00140-2-42556
編集人 榊枝 宗男
発行人 杉本 順則

令和5年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑

秋季慰霊祭を催行

10月18日、爽やかな秋晴れの下「令和5年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭」が、厳粛に執り行われた。式典では、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、内閣総理大臣（代理）をはじめ、戦没者のご遺族や戦友会関係者、環境大臣等の閣僚、政党党首、駐日大使等、自衛隊の高官等（代理を含む）、内外の多数の関係者が参列し、先の大戦で亡くなられ、現在の平和の礎となられた全戦没者に対して感謝と哀悼の誠が捧げられた。

ご臨場されご着席された秋篠宮皇嗣同妃両殿下

本年の参列者は580名にのぼり、コロナ禍の影響を受けた昨年の380名を大きく上回った。特に、遺族会については、昨年に引き続き今年も47都道府県の遺族会へ拡大し11都道府県の遺族会代表約80名の出席を得た。

式典は午後1時に開始され、奉仕会理事長塚田章による開式の辞のあと、海上自衛隊東京音楽隊橋本晃作2等海曹による国歌独唱をこれまでの奏楽にかわり初めて行った。その力強くかつ美しい「君が代」の歌声は、千鳥ヶ淵墓苑の静寂さの中で高らかに響き渡った。引き続き、表千家流の亀山和子先生による献茶の儀が行われた。次に、祭主である鈴木俊一奉仕会会長（現財務大臣）が式辞を述べ、全戦没者に対して心からなる感謝と哀悼の誠を捧げた。次いで、吉永龍奏氏により昭和天皇の御製吟詠と琵琶演奏を、また、竹内一香氏（尺八安藤一感氏）により上皇陛下御製が吟詠され、続いて音羽ゆりかご会海沼会長の挨拶に引き続き小学生14名による「海ゆかば」「里の秋」「故郷（ふるさと）」の唱歌奉唱による奉納行事が整斉と行われた。

その後、岸田内閣総理大臣の「追悼の辞」が、石原宏高総理補佐官より紹介され、「戦争の惨禍を二度と繰り返さないという決意を貫いていくためには、先の大戦の記憶を次の世代に継承していかねばならない」との決意を述べられた。

ご拝礼される秋篠宮皇嗣同妃両殿下

引き続き、参列者一同が起立するなか、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が墓前に進まれ全戦没者に対してご拝礼をなされ、次いで参列者一同に見送られご退出された。続いて陸上、海上、航空の各自衛隊を一体化した統合部隊による拝礼が行われた。陸上自衛隊から第1普通科連隊（練馬）、海上自衛隊から横須賀地方隊（横須賀）、航空自衛隊から作戦システム運用隊（横田）をはじめとする各部隊及び本田航司1等海尉を指揮官とする海上自衛隊東京音楽隊（用賀）が参列した。

最後に、祭主、総理大臣代理、各都道府県遺族会、同期生会、戦友会、参列の来賓等が献花し、奉仕会副会長草刈隆郎が締めの献花を行って式典は午後2時、滞りなく終了。じ後、参列者による焼香が行われた。今回、行事進行において、司会は阿南貴恵アナウンサーが務め、東京都隊友会から71名の支援を受けた。

内閣総理大臣追悼の辞（石原宏高総理補佐官）

内閣総理大臣追悼の辞

本日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席の下、千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭が挙行されるに当たり、謹んで追悼の言葉を申し述べます。

先の大戦では、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に眠られている三十七万余の方々を始め、多くの方々が、戦場に斃れ、あるいは戦後、遠い異郷の地で命を落とされました。改めて、心より哀悼の誠を捧げます。

終戦から77年の歳月が流れた今日、未だ帰還を果たされていない多くのご遺骨のことも、決して忘れません。本年改正された遺骨収集推進法に基づき、御遺骨の収集を集中的に実施し、一日も早くふるさとにお迎えできるよう、全力を尽くしてまいります。

今、私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであります。戦争の惨禍を、二度と繰り返さない。この決然たる誓いを今後も貫くためにも、先の大戦の記憶を次の世代に確かに継承してまいります。歴史の教訓を深く胸に刻み、未だ争いが絶えることのない世界にあって、今後とも、世界の平和と繁栄に能う限り貢献し、これからの世代のために、未来を切り拓いてまいります。

終わりに、戦没者の御霊の安らかならんことを、ご遺族の皆様には、ご多幸を、心よりお祈りし、追悼の言葉といたします。

令和5年10月18日
内閣総理大臣　岸田　文雄

式辞（鈴木俊一会長）

式辞

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、戦没者のご遺族並びに各界代表のご参列を頂き、令和五年度秋季慰霊祭を挙行できますことは、誠に感激に堪えないところであります。

終戦以来、本年はすでに78年目を迎えました。先の大戦におきましては、多くの同胞が祖国の安泰を祈念しつつ戦場に赴き、勇戦敢闘、戦火に散り、あるいは極寒、辺境の地において抑留中に一命を失われました。

更に、また少なからざる一般邦人の方々が、戦闘に巻き込まれて、いたましくも命を失いました。

祖国を離れ、遠い異国の地で、愛する家族、伴侶、子供、両親を、そして故郷の山河を思いながら貴い命を国のために捧げられた戦没者の心を想うとき万感胸に迫り、筆舌に尽くし難いものがあります。また、一方で愛しい方々を失われた御遺族の御心情を察するに、今なお耐え難い、深い胸の痛みを覚えるのであります。

昨年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻など国際情勢の変化が激しい今日においても、私達は、平和で豊かな生活を享受しておりますが、それが戦没者の方々の犠牲の上に築かれたものであり、英霊の御加護によるものであることを片時も忘れてはならないと思います。

ここに静かに頭を垂れ、謹んで国難に殉じられた戦没者の方々に、心からなる感謝と哀悼の誠を捧げ、御冥福をお祈り申し上げる次第であります。

当千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、現在、海外で戦没された方々で、お名前が分からない等のため、御遺族にお渡しできない御遺骨、三十七万四百八十五柱が奉安されております。御遺骨収容の努力は今なお続けられておりますが、今日未だ海外に百十二万人の御遺骨が残されており、一日も早い御帰還が果たされ、ご遺族の皆様に心からの安らぎがもたらされることを祈念しております。

私どもは、今後とも、当墓苑が全戦没者に対する慰霊奉賛の灯火を守る国民的聖苑として、これを確実に次の世代へと継承すべく努力を続けてまいります。

終わりに今一度、戦没者の御霊に平安を、ご遺族の皆様のご多幸を心よりお祈りし、式辞と致します。

本日は誠にありがとうございました。

令和5年10月18日
公益財団法人
千鳥ケ淵戦没者墓苑奉仕会
会長　鈴木　俊一

あなたに夢を。街に元気を。
クーちゃん　宝くじ

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

秋季慰霊祭のご支援に感謝

令和5年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭では沢山の方々のご支援、ご協力をいただき整斉と執り行うことができました。先に記載した部隊拝礼いただいた陸・海・空自衛隊の隊員の皆様、及び高名な諸先生方による献茶や奉納行事以外にも、多くの方にご支援いただきましたので紹介致します。東京都隊友会（自衛隊OB会）71名の皆様には、受付、案内、司会進行、救護などの式典運営支援にご尽力していただきました。また、海上自衛隊東京音楽隊には、式典における奏楽を、陸上自衛隊第301映像写真中隊の方々には、写真、ビデオ撮影を担当していただきました。皆様の献身的なご支援、ご協力に対し、衷心より敬意と感謝を申し上げます。以下その様子を紹介致します。

来賓受付

受付テントを設営する東京都隊友会

献茶　表千家流　亀山和子先生

国歌独唱　橋本2等海曹

国歌　ご起立される秋篠宮皇嗣同妃両殿下

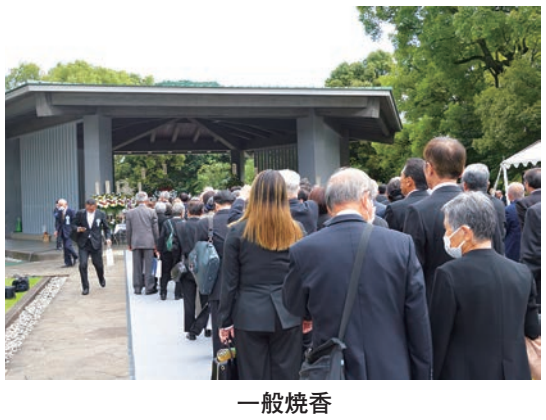
上皇陛下御製奉踊　竹内一香・安藤一感先生

昭和天皇御製奉踊　吉永龍奏先生

音羽ゆりかご会

参拝部隊指揮官　角田2等陸尉

陸海空自衛隊統合部隊による拝礼


一般焼香

全国都道府県知事会会長　村井嘉浩宮城県知事

献花される遺族会の方々

閉式の辞　塚田理事長

司会阿南貴恵アナウンサーと式典進行係の皆さん

海自東京音楽隊指揮官　本田1等海尉

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

立正佼成会
千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要

9月23日、立正佼成会主催「第65回千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要」が催された。法要は、先の大戦において犠牲になられた戦没者に真心からの回向供養をさせていただく式典で、二度と戦争を引き起こさないこと、平和の永続に対して誓願を新たにするものである。慰霊法要は導師である千葉東京教区長による読経供養に始まり、次いで回向文が千葉導師により奏上され、「我が国は、かつて戦争に敗れたことなどを忘れたかのように、世界の中で経済的に大きな発展を遂げています。私たちは終戦の年から、77年もの長きに亘り、平和を享受してまいりましたが、時の経過と共に、戦争の記憶が薄れつつあることは否めません。しかし、この平和なときは、幾多の犠牲の上に成り立っていることを、私たちは決して忘れてはなりません。千鳥ヶ淵戦没者墓苑の六角堂を前に、我々の使命である、真の世界平和に思いを馳せるとき、日本国民として、また信仰者として、どんなに遠い道のりでも、理想に向かっていく志気が高まって参ります」と述べ平和への決意を披露した。その後焼香が行われ、最後に導師挨拶が行われて法要は終了した。本年の法要は、例年どおり極めて厳粛な中で行われた。

立正佼成会は、当墓苑が昭和34年創建されて以来、毎年秋のお彼岸の中日に千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要を開催している。

浄土真宗本願寺派
第43回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

9月18日、浄土真宗本願寺派（西本願寺）主催「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が執り行われた。法要開始にあたり宗門関係学校生徒作文の朗読と表彰式が行われた。引き続き、西原裕治師による法話が行われ全戦没者追悼法要が開始された後、宗門として恒久平和への願いを新たにするため受賞生徒により平和の鐘を撞き、約400名の出席があり、全戦没者追悼式典が開始された。導師中尾史峰築地本願寺宗務長が三奉請を行った後式典は終了した。

【私たちが思う戦没者慰霊について②】
私個人ができる戦没者慰霊とは

麗澤大学学生　鈴木陽之助

令和5年5月27日、私はゼミ活動の一環で千鳥ヶ淵戦没者墓苑及び靖國神社を訪問・参拝した。護国に殉じた方々や犠牲となった方々のこと・またその事実を考えると身の引き締まる思いである。もっと「善く生きねば」「シャンとしなければ」と思わされる。

私が今、先の大戦で亡くなられた方々のためにできる慰霊といえば「善く生きる」ことくらいのものである。

よく、「戦争を忘れてはならない」か「繰り返してはならない」といったことを耳にする。しかし、そこから先を考えることはそう多くはないと思う。

何故忘れてはならないか？　それは、あの過去があって今の我々があるからであり自己の一要素である「己は日本人である」ということの根幹の一つをあの過去が形作っているからである。先の大戦を完全に忘れるということは、己のアイデンティティの一つを失うことに等しい。それでは、先祖も浮かばれないであろう。だから、我々は先の大戦を忘れてはならないのである。

何故「繰り返してはならない」か？　これは正確には「繰り返さないようにしなければならない」だと私は考える。前者は、どうにも能動性に欠ける言葉に思える。私たちがしなければならないことは、備える事である。戦争を「繰り返さない」だけなら先祖が守ったこの国が文化的にあるいは実際に滅びるまで座して見ていることで達成できる。私たちが成すべき事は「繰り返さないようにする」ため「善く生きる」ことにより国を守り、善くする事である。

では、「善く生きる」とは何か？　それの根幹は私の思うに二つのことである。「国を愛すること」と「己の生に誇りを持つこと」である。国を守るため殉じた英霊からすれば、己の守った国・国民がそうあり、生きていたらこれほど喜ばしいことはないであろう。これを真に行うことができたのなら、それは慰霊にもなるのではないだろうか？

そして、私が考える先人に対する最上の慰霊とはすべての知性ある国民が、国を愛し己に誇りを持ち「善く生きる」ことである。私個人にできる慰霊は、己が「善く生きる」ことである。

国をよく知らなければ愛国は難しく、己に誇りを持ち生きることはそれ以上に難しい。私の考える慰霊は一生かかるものであり、誰にでも挑戦できるものでもある。一生をかけて取り組むべき、終わりがないこの慰霊は私たち現代日本人に課せられた課題である。

【私たちが思う戦没者慰霊について③】
私たちが思う戦没者慰霊

林田　倫実

戦争は起こってはいけない。と改めて感じました。英霊の方々の遺書を見て、当時の遺品を見て、彼らの血書を見てどんな思いで戦地に向かったのか想像するだけで胸が苦しくなりました。遺書の中には、家族や妻子への想いが記されていました。

遺書の内容としては、国のために身を捨てるのは惜しまない。自分の体は自分だけのものではない。陛下の赤子なのだ。とありました。今の私たちは、国のために命を懸けるほどの度胸はないだろうし、関心もない。自分の命が最優先だと考える人が多いと思います。この状況を英霊の皆さんはどう思うのでしょうか？　それでも日本人か。と言われるかもしれません。

今の日本があるのは英霊のおかげであり、私たちはもっと感謝しなくてはいけないと思います。日本を背負って戦って

（第四面につづく）

各団体の慰霊参拝

静岡県中畑遺族会（5.9.30）

飯田市遺族会（5.9.27）

静岡県遺族会（5.9.3）

東京葵ライオンズクラブ清掃奉仕（5.10.7）

八王子市遺族会（5.10.6）

伊達市遺族会（5.10.1）

令和5年度会費納入のお願い

今年度から全ての正会員及び特別会員の皆様には会計年度（4月から翌年3月）を基準に5月を統一会費納入月として、会費納入をお願いしておりますが、10月末現在の会費納入率は約25％となっております。未納の方は納入の程宜しくお願い申し上げます。

◎奉仕会5年度会費納入者（団体・個人）
（敬称略、順不同）

持留宗一郎、曳田圭子、田浦政彦、幸村龍一、藤田憲二、柏谷康博、石川正英、竹村五夫、猪膝武典、河村　涼、原田敏裕、五十嵐久子、野澤和浩、中西一郎

◎新入会員（敬称略、順不同）

中村美和、齋藤雅文、水島正彦、木村圭作、大沢　正、中野孝文、島本昌彦、中村　勤、岡本江美、西田　潔、柴田純一

◎奉納、参拝団体・参拝者（敬称略、順不同）

クラスノヤルスク遺族会、シベリア・モンゴル抑留犠牲者追悼の集い、静岡県遺族会、静岡県川根本町遺族会、飯田市遺族会、普明会教団、解脱会東京地区協議会、新宗連青年会、日蓮宗、フォーラム平和人権環境、三五教、浄土真宗本願寺派、解脱会（個人奉納）、解脱会青年本部（個人奉納）、立正佼成会、水交会、華道院研究部、㈱秀拓（米原恭淳）、㈱SUN&MOON、秀平良子、木原泰幸、恒川幸三、ヤマシタ・タカヒロ、伊藤哲朗、永里太郎、芹川いち子、山本勝久、福永峰子、西脇武利、宇佐見和孝、菊池克之、宮崎太朗、角田知義、國島俊之、加藤美沙子、中村文江、高木浩一・三恵子、海藤二男、新井和幸、宇山登美江、美山光庸・由美子、酒井治雄、柴田米実、翁　玉恵、福井康夫、廣川貞雄、廣川剛秀、大澤一久栄、東佐知子

◎参拝団体（前項以外、敬称略、順不同）

各府県遺族会（青森、山形、石川、大阪、奈良、鳥取、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）、長野市遺族会、愛知県東郷町遺族会、飯山市遺族会、一宮市遺族会、静岡県中畑遺族会、強制抑留者協会埼玉県支部、平和祈祷会、英霊に誠の感謝を捧げる会、立正佼成会朝霞教会、喇叭伝承会、甲飛喇叭隊、喇叭保存会、千代田区海洋少年団、大田区立矢口小学校児童

◎清掃奉仕（敬称略、順不同）

阿含宗清掃奉仕会、立正佼成会清掃奉仕会

◎献花台奉仕者（敬称略、順不同）

藤栄流（落合一文、倉地一博、溝渕一富）、古流わかば会（武藤理春、武藤理恵、秋葉理恵、金澤理美、丸山理窕）、古流茂風会（大藤茂風、鈴木泉風、田巻泰風、高橋里風）、国際華道如心流（新井礼心、鈴木淑峯、片桐菖心、吉見恵峯、木村征峯）、草翠流（林草翠、林　聖子、石川和幸、関根和広、原　房江）、松葉流古流（田中一秀、木村一恵、田中一桜、渡来一靖）、美風池坊（小島美陽、西田栄舟、斎藤美夕、小島能久、小島美陽）、古流松瀧流会（石井理顕、清水理弘、高梨理園、佐々木理修、亀岡理秀、井内理琴、山田理創）

令和5年9月30日まで受付分を掲載、10月1日以降受付分は次号に掲載します。

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

（第三面からつづく）

くれた方に感謝することは当然ですが、感謝しない国民がいれば、日本は今後幸せな国にはなれないと思います。

戦争は起こってはいけない。なぜ戦争が起こるのでしょうか？　天然資源を求めているからでしょうか？　力を示すためでしょうか？　皆権利が欲しいのでしょうか？

恥ずかしながら、政治に関しては無知なため、純粋に国同士で協力できないのか？という素朴な疑問が湧き出てきます。昔は領土を侵略する中で、武士や騎士は人を殺せば殺すほど英雄扱いされました。しかし、私たちは戦争の経験から、戦争がどれだけ惨いか学びました。戦争は繰り返してはいけない。小学生のころ国語の教科書に戦争はダメ。どんなにいい子にしていても殺されてしまう。とかいてあったメッセージを覚えています。

今回、千鳥ヶ淵戦没者墓苑と靖國神社を参拝して、私たちはもっと戦争について学ばなければいけないと感じました。そして、自分の頭で考えることが大切だと学びました。何が正しくて何が正しくないのか、玉石混交の情報にフィルターをかけるのは自分。願っているだけでは平和は来ない。戦後の今を生きる人は何をすべきなのか、人として何が正しいのかを考えてより良い日本を作っていく必要があると感じました。

私自身、戦争について知るのが遅すぎました。浅はかな知識しか持っておらず、恥ずかしいです。戦争を知らない方が遺書を見て、かわいそうにだけで終わらせないことが重要だと考えます。遺書には、悲しまないでほしいとも書いてありました。その言葉通り、私たちは、悲しんで憐れむよりも、先に感謝を伝えるべきだと思います。

最後に、家族に向けた遺書に、然しながら、今一度顔を見たかったとありました。自国のために命を懸ける誇りと同時に、家族と離れ離れの環境で無念の想いもあったと思います。

戦争は起こってはいけない。戦争を起こさないためには、どうしたらよいのか。国民一人一人が政治に関心を持ち行動に起こさなくてはいけないと感じました。今の日本があるのは英霊の皆様のおかげであることを忘れず、戦争は繰り返してはいけないという教訓を胸に、私は日本国民としてよりより日本の創造に貢献します。そして、その第一歩として選挙に行くことを誓います。

国際合同慰霊祭の開催
―世界に広がれ！　慰霊と和解の輪―

インパールを思わせる雨の中、献花に向かうデイ氏

10月9日、本墓苑で「ビルマ作戦協会」主催による国際合同慰霊祭が開催された。あいにくの雨の中、日本、英国・同盟国から約80名が参加し、日・英両国歌の斉唱から始まり、「詩」の朗読、追悼の言葉、献花、拝礼、最後に代表者による「和解の握手」で終了した。

主要な参加者として、駐日英国大使、駐日ニュージーランド大使、駐日各国武官、元インド大使、参議院議員が名を連ねた。その中でも特筆すべきは、英軍兵士としてビルマ戦線に従軍したリチャード・デイ氏が、97歳の高齢ながら英国から来日し両国戦没者への慰霊と英日和解のため本慰霊祭に参加した。

注釈：「ビルマ作戦協会」
英国にて2002年にから活動開始、第2次世界大戦後の日英の相互理解と和解を進める活動を続けている。会長はマクドナルド昭子氏で、父親はインパール作戦に従軍した日本人。

君たちが母国へ帰ったら、伝えてほしい
君たちの明日の為に
我々の今日を捧げたのだと・・・
When you go home, tell them of us and say
“FOR YOUR TOMORROW,
WE GAVE OUR TODAY”　「詩」の一節から

シベリア・モンゴル抑留犠牲者追悼の集い

8月23日（水）、シベリア抑留者支援センター（代表世話人・有光健氏）主催の「第21回シベリア・モンゴル抑留犠牲者追悼の集い」が約100名の参加を得て開催された。

式典は全員による黙祷に始まり、主催者を代表して97歳になる元抑留者の新関省二シベリア抑留支援センター世話人が挨拶した。この中で、「強制抑留経験者の平均年齢は今年100歳になることを深く考えれば、今後が心配である。国が中心となってロシアによる強制抑留の実態解明を迅速かつ強力に進めてほしい」と述べた。

次いで来賓として参列した厚生労働省社会・援護局審議官により、厚生労働大臣の挨拶が代読され、遺骨の取り違えを謝罪しつつ「遺族の思いをしっかり受け止めながら、責任をもって遺骨収集事業に取り組む。戦後78年を迎える今日、戦中・戦後の労苦を体験された方々が少なくなる中、先の大戦の教訓を風化させることなく継承していくことが重要、若い世代へ先の大戦の記憶を語り継ぐ」（要旨）と述べた。

最後に参列者全員の献花が行われ、厳粛な雰囲気の中に式典は終了した。

墓苑便り（奉仕会だより）

1　11・12月の献花予定

帝国華道院研究部の会員による11月、12月の献花は次の方々です。

ご来苑の際は、是非ご鑑賞下さい。

11月　古流桜会　本加　理威
　　柴山古流・縁山流　沼田　冷笑
12月　遠州流一森会　名鏡　一玲
　　都古流一孝会　内田　一孝

2　秋季慰霊祭参列者への御礼

多くのご来賓、会員の方々にはご多用の中ご参列いただき感謝申し上げます。紙面をお借りして御礼申し上げます。

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

移動採血車
全国各地で運行している献血バスを寄贈

ベンチ
全国の公園緑地等にベンチを設置

フラワープランター
観光地の環境美化活動の推進を目的として寄贈

宝くじ桜
日本全国にさくら若木を寄贈

車いす
博物館利用者のために車いす等を寄贈

一輪車
体力つくり実践校等に一輪車を寄贈

バス停留所施設
バス停上屋と風防施設を設置

すこやか広場
こどもの国（神奈川県）に健康器具や遊具を設置

検診車
胃部・胸部X線撮影車として寄贈

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。
一般財団法人 日本宝くじ協会
https://jla-takarakuji.or.jp/

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。